

かわぐち

2002. 12月号 No.351

— 今月号の主な内容 —

- 櫻井徳太郎さん、初代名誉町民に… 2
- 町政功労者5名を表彰…………… 3
- エンゼルプランを策定…………… 4~5
- かわぐち町民フォーラムを開催… 6~7
- 除雪の時期を迎えました…………… 8
- 秋まつりで文化の秋を満喫……… 10~11

ほか



新潟ふるさと村で「あおり太鼓」熱演!

11月23日、新潟ふるさと村で行われた「雪と灯りの祭典 えちごかわぐち物語展」で、あおり太鼓の皆さんが特設ステージで川口町をPRしてくれました。力いっぱい太鼓の演奏は、たくさんの観客から大きな拍手を浴びていました。

かわぐち歴史探訪 ⑨ 大の月、小の月



▲写真は大小月看板(陶器)

明治維新の後、明治五年の秋、すでに来年の天保暦が一般に巡回していた。そこに突如十一月九日、改暦の布告が出た。太政官布告三三七号という。この布告によると、明治五年十二月三日を以って明治六年一月一日とする。太陰暦を廃止し太陽暦とする。一年を三六五日とし、十二月の月に分けて四年毎に一日の閏を置く……と言いうような内容であった。

それまでのひと月は二十九日であったり、三十日であったが、三十一日は無かった。それで二十九日の月を小の月、三十日の月を大の月と決めていた。江戸時代はすでに貨幣経済社会であり、川口などでも金の世の中であった

から、現在のように金の貸し借りは日常的におこなわれていた。金の工面が生活のすべてでもあったので、年貢を納めるには田畑を質に入れて金を作った。お金を返すには金利が付き、金利を計算するには、日を計算する。その計算をするためには大の月、小の月を知る必要があった。商いをする家では、柱に今月は何の月かを示す大小月の看板が掛けられていた。(写真参照)陶器でできていたものもあるし、木製のものもある。

大の月、小の月については、伊勢屋などを見て人々は知っていた。伊勢の御師(おし)が信者に配布していたのだという。

あとがき

▼毎月、広報紙を作る過程で一番私を悩ませるのが、表紙の写真です。時間を見つけて車で町内を回ってても「これだ!」というシーンにはなかなかお目にかかれないもの。▼そんな中、今月号は、あおり太鼓の皆さんが新潟市のふるさと村で川口町をPRすると聞きつけてパチリ!最初は緊張気味の子どもたちでしたが、いざ始まると、迫力のある演奏で観客を大いに沸かせました。あおり太鼓の皆さん、おつかれ様でした。

櫻井徳太郎さん 初代名誉町民に

(和南津出身、
元駒沢大学学長)

11月3日、生涯学習センターにおいて「えちごかわぐち物語2002秋まつり」表彰式典が行われ、和南津出身で元駒沢大学学長の櫻井徳太郎さんに初代川口町名誉町民の称号が贈られました。また、式典終了後は、交流体験館「杜のかたらい」において、町内の行政・各団体の関係者を集め、受賞を記念して講演会及び祝賀会が開催されました。



▲星野町長から名誉町民の証を授与される櫻井徳太郎さん

櫻井徳太郎さん、 その生い立ちと功績

櫻井徳太郎さんは、大正6年旧川口村和南津に生まれ、14歳まで和南津で過ごしました。東京文理科大学史学科を卒業後は、東京教育大学文学部教授、駒沢大学文学部長などを歴任し、昭和58年に公選初代の駒沢大学学長に就任、平成3年に退職され同大学名誉教授となりました。この間、日本民俗学会会長、日本風俗史学会会長などを歴任し、広く学会の要職を勤められました。また、櫻井さんは早くから柳田国男翁に師事し、日本の民俗学の諸分野で研究を重ね、「日本民間信仰論」「講集団成立過程の研究」等多数の著書を発表。特に民俗宗教の分野において、日本はもとよ

り東アジアから世界史的視野で広く調査研究され、学問や学会の発展に貢献されました。これらの功績が高く評価され、昭和37年に第1回柳田国男賞をはじめ昭和56年に紫綬褒章、平成2年に勲三等旭日中綬章、今年4月に第12回南方熊楠賞など多くの栄誉を受けられました。平成9年に満80歳を期に一切の公職を辞されましたが、現在も学会で精力的に活動され、後進の育成に努められています。

川口町名誉町民とは、川口町に住所又は縁故を有する方で、社会文化の進展に貢献し、その功績が著しく優れ、町民の敬仰を受けるにふさわしい方に贈られます。今回、町議会9月定例会で条例の制定と併せて、櫻井さんに初代名誉町民の称号を贈ることが承認、決定されました。

「わたくしの歩んだ道」 記念講演会を開催

記念講演会では、櫻井さんが「わたくしの歩んだ道」と題し講演され、小学生時代、全校生徒が百人社会科の授業で和南津の立体地図を作成して地域社会を理解する大切さを教えられたこと、農閑期には夜間も先生が授業をしてくれたことなどのエピソードを紹介。最

後に、「いくつになっても研究を続けることは自分の信条であり、自分が作詞をした川口小学校の校歌が今でも歌われていることを心の支えとしてこれからもがんばっていきたい」と語られました。

和南津地区の皆さんが祝福

祝賀会では櫻井さんの出身地である和南津地区の皆さんが、「わか」と花笠音頭を披露。また、櫻井さんが作詞した旧和南津小学校校歌を当時の在校生14人が合唱し櫻井さんを祝福しました。



町に百万円を寄付

このたび、名誉町民の称号の贈呈に際し、櫻井さんから町に金百万円が寄付されました。町では櫻井さんの意志を尊重し、教育・文化の一層の振興に役立てていくとしています。

町の発展に貢献

町政功労者5名を表彰

11月3日、名誉町民称号の贈呈と併せて、平成14年度町政功労者表彰と農業、商業及び各部門で優秀な成績を収められた方々の表彰が行われました。町褒賞条例に基づく、町政功労者表彰は、長年、町の政治、経済、文化、福祉などの各分野で町の発展に大きく貢献された方、他の模範となる方、並びに町行政に積極的に協力された個人、団体を表彰するもので、今年はその5名の方が表彰されました。

社会福祉の向上に貢献 山吉キヨさん(川口1・73歳)



昭和55年から22年間の長きにわたり民生・児童委員として、地域の信望を得て生活弱者、障害者、高齢者等の相談、指導に尽力され、社会福祉の向上に貢献されました。

体育振興に貢献 喜多村茂樹さん(上河原・55歳)



少年野球指導員として、昭和56年から21年間の長きにわたり、野球を通じて子どもたちの健全育成とスポーツの振興に貢献されました。また、商工会の理事、副会長

体育振興に貢献 内藤 克己さん(川口3・53歳)



少年野球指導員として、昭和54年から23年間の長きにわたり、野球を通じて子どもたちの健全育成とスポーツの振興に尽力されました。また平成6年から民生委員・主任児童委員を勤め、青少年に対する指導及び相談役として、地域社会の環境づくりに貢献されました。

体育振興に貢献 中林 浩さん(川口5・51歳)



卓球スポーツ少年団指導員として、昭和56年から21年間の長きにわたり、卓球を通じて子どもたち

の健全育成とスポーツの振興に貢献されました。

その他主な被表彰者 (敬称略)

- 農業振興
 - よらん会(代表 丸山シゲ子)
- 商工振興
 - 有限会社 山勝堂(川口1)
 - 越後川口物産株式会社(貝之沢)
- コシヒカリ品質向上共進会
 - 最優秀賞 水落 潔(大形)
 - 優秀賞 丸山 秀夫(長坂)
 - 江島 一夫(牛ヶ島)
 - 星野 誠(岩出原)
 - 岡村 隆好(岩出原)
 - 関 正一(西倉)
 - 丸山 進(長坂)
- 優良賞
 - 岡村 隆好(岩出原)
 - 関 正一(西倉)
 - 丸山 進(長坂)
- 菊花展
 - 最優秀賞 富田 功(川口1)
 - 議会議長賞 水落佐一郎(大形)
 - 農協組合長賞
 - 前澤 孝(貝之沢)
 - 教育長賞 丸山 静(長坂)
 - 郵便局長賞 目黒 和枝(川口4)
 - レストランたかべん賞
 - 賞張 俊子(下村)
 - 菊花会長賞 星野 洋子(新敷)



健やかな成長はみんなの願い

エンゼルプランを策定しました

広報8月号で、地域で安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めるため、町は児童育成計画（エンゼルプラン）に着手したことをお知らせしました。今月号では、「かわぐちまちエンゼルプラン」を策定しましたので、その概要をお知らせします。

安心して子どもを産み育てられる環境づくりをめざして

少子高齢化と過疎化が同時に進行している川口町の現状の中で、特にこれからの町を担う子どもたちの減少は、町の活力の低下につながります。結婚や子育ては、あくまでも個人の生き方や価値観に関わるものではありませんが、結婚や子育てに意欲を持つ人を支えられる環境づくりが、今、地域社会に求められています。

このたび、町では策定委員会の皆さんの協力を得ながら「かわぐちまちエンゼルプラン」を策定しました。このエンゼルプランは「安心して子どもを産み育てられる環境づくりをめざして」を基本目標とし、次の4項目を指針としています。

- 子育て支援の4つの柱
- 1 「家庭や地域における子育て支援」
 - ①働く女性が増えている中、家庭と仕事の両立で女性への負担は増加しています。男女がともに子育てを支え合えるよう男女共同参画の啓発を促進します。
 - ②講演等を開催し、家庭での教育力の向上を目指します。
 - ③子育ては一家だけでではできない社会的な営みです。子どもが豊かな人間性を育むことができるように、地域とのふれあいの輪が広がるように支援します。
 - 2 「子育てのできる環境整備」
 - ①保健、養育、しつけ等の悩みをいつでも気軽に相談できる体制づくりを進めます。
 - ②養育費・医療費の軽減を図るため、法制度に基づく給付制度の適正な運用を図ります。
 - ③子育てと仕事の両立に向け職場の環境づくりを啓発します。

- 3 「多様な保育ニーズに応じた環境づくり」
 - ①核家族化や就労形態の多様ななどにより、柔軟な保育サービスが求められます。延長保育や一時保育、乳児保育などの特別保育事業や放課後児童ふれあい広場の充実に取り組みます。
 - ②多様な保育ニーズに対応したサービスを提供するため、保育園の適切な配置（分園・統合）を含めた保育園体制の検討を行います。
- 4 「母子ともに健康で安全に生活できる環境づくり」
 - ①妊娠から出産・乳幼児期までの母子保健事業の充実を図ります。
 - ②正しい食生活と生活習慣病の予防対策の充実を図ります。
 - ③家庭訪問などにより、成長していく子どもたちに応じた、こころと体の健康増進を図ります。
 - ④子どもが自然環境の中でさまざまな体験ができるよう自然環境の保全や世代間交流などの環境づくりを進めます。



エンゼルプランは、家庭や地域における子育てを支援します。2歳の娘は歌が大好き。私も負けず歌うと「お母さんへたくそ…」と言われます。子どもとのスキンシップを大切にしながら、安心して育てられる環境の中で、のびのびと子育てできたらいいですね。（相川1 鈴木美奈子さん）

子育て支援に

特別保育を実施しています

保育園では、保護者の仕事や社会活動などのため、保育時間の延長や3歳未満児保育、一時保育などの特別保育を実施し、子育て支援に努めています。

- 延長保育
保護者の就労の都合などで、保育時間の延長を希望することがあります。
早朝は7時30分から、夕方は最長で18時30分まで延長できます。
- 3歳未満児保育
保護者の送迎により、生後6か月から3歳未満の乳幼児を対象に

東川口保育園で実施します。人数に限りがあり、受入れできない場合もあります。

- 一時保育
保護者の就労や傷病、入院、看護など、緊急一時的に家庭で保育ができない時に入園できます。対象者は川口町に住む満1歳から就学前までの幼児で、入園できる期間は一月に14日以内です。保育料は1日につき千二百円です。
※特別保育を希望されるお子さんの心身の成長、発達に不安のある方は、保育園にご相談ください。

子育てサークルに入りませんか？

町では、子育て支援策の一つとして、子育てサークルの活動場所や情報の提供に取り組んでいます。

町内では、親子のふれあいを育むことを目的に、未就園児を対象に「ひよこくらぶ」と「ひまわりっこ」のサークルが活動しています。育児の情報を交換したり、親子で遊んだり、子育てに新しい発見がきつと見つかります。

- ひよこくらぶ（町内全域）
連絡先 近藤 尚子（川口7）
☎89-4080
- ひまわりっこ（上川地区）
連絡先 星野美智代（相川1）
☎89-2709



平成15年度町立保育園の入園申し込みを受け付けます

■受付期間
12月9日（月）～20日（金）
現在保育園に入園されている保護者の方には改めてご連絡します。

■入園対象者
小学校就学前の平成14年10月1日までに生まれた幼児。町外の方も入園できます。事前にご相談ください。

■入園先保育園
住所に関わらず、定員の範囲内で希望する保育園に入園することができます。

■申込方法
入園申込書に必要書類を添えて入園を希望する保育園に提出してください。入園申込書などは、各保育園に用意してあります。

詳しくは各保育園にお問い合わせください。
※なお、年度途中の入園を希望する場合も保育園にご相談ください。
○東川口保育園……☎89-2028
○西川口保育園……☎89-3696
○上川保育園……☎89-3555
○田麦山保育園……☎89-4150



男女が共に歩むまちづくりに向けて 神津カンナさんを迎え、かわぐち町民フォーラムを開催



11月17日(日)、交流体験館「杜のかたらい」において、かわぐち町民フォーラムを開催しました。フォーラムでは、作家の神津カンナさんを講師に迎え、「大切なものがわかれば変えられる」と題して講演会と「私がわたしらしく生きるために」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

基調講演

「大切なものがわかれば
変えられる」

基調講演では、神津カンナさんが、「私たちはとかく物事に枠をはめて考えがちで、イメージ・感覚にとらわれ、法律・制度が変わっても意識を変えにくい、角度をかえてみるとまったく違った考えが生まれる」と、身近な例をあげユーモアを交えて説明。自身の曾祖母が、職業婦人として自立するように子育てをしてきたことや、妹の夫が家事に積極的に取り組んでいるエピソードなども紹介してくれました。

また、「現代社会は情報があふれているため、知識や経験、感覚

で物事を判断してしまいがちで、自分の頭で考えることが難しくなっている。日常生活の中で『考える』ということがトレーニングされていらないから、自分にとって何が大切なものなのかわからなくなってきた」と指摘。
私たちが男女共同参画社会づくりを進めていく時に大切なのは、「男女に関わらず、一人ひとりが自立すること、何を目指しているのかを考えることだと思っています。法律が変わってもなかなか社会は変わらない。一人ひとりの意識が変わらなければいけない」と提言してくれました。



パネルディスカッション

「私がわたしらしく
生きるために」

基調講演のあと、新潟ウイメンズ企画運営委員の大河内芳子さんの進行で、「私がわたしらしく生きるために」をテーマにパネルディスカッションが行われました。



大河内芳子さん
(新潟ウイメンズ企画運営委員)

はじめに、コーディネーターの大河内さんが、「女らしさ、男らしさ」といった作られた固定観念(ジェンダー)と、社会の仕組みの中で決められた性別役割分担について説明。「一人ひとりの個性や能力が発揮できる社会づくりに向けてどうしたらいいか」と問題を提起し、パネラーの皆さんから意見を述べていただきました。

星野町長



「町の根本的な考えは、町民総参加による町づくりであり、個人の個性・能力を出し合っていていく事は、男女共同参画社会基本法と合致している。日本は人格の尊厳についての捉え方が浅く、男女共同参画社会の形成において、宗教と人権問題がきちんとできていないと、男女間も浅いものになっていくのではないか。」

近藤尚子さん(ひよこクラブ代表)



「家庭・地域に比べると学校は男女平等と思われがちだが、不必要な区別が多くある。学校が男女混合名簿にすることは、男女間のこだわりをなくし、性別でなく個人のあったものを選択していける社会づくりを進めることにつながる。また、男女を平均値で捉えるのではなく、一人ひとりを見て自

「子育ての中で思う事は、子どもに強要して女の子らしく、男の子らしくさせる必要はなく、好きな事をさせたい。ジェンダーフリーや男女平等というのも男女が何もかも同じになるというより、男女共に同じチャンスが与えられ、選択するのは自由だという社会になればいいと思う。また、父親が家事・育児に参加するについては忙しい、職場や社会の体制が整わないと無理のように思う。」

福嶋秩子さん(新潟県立女子短期大学教授)



「子育ての中で選べる、そんな生き方が出来る子どもを育てたい。」
神津カンナさん(作家)
「家庭の中では、女らしく男らしくとはあまり言われなかったが、礼儀、作法、言葉使いといった人間としての基本的な事は言われた。ニューヨークでも男女の差別はあったが、言語、肌の色などが強烈な差別だったので、面に現れにくかった。」
それぞれの立場から男女共同参画社会の形成に向けての考えや取り組みについて貴重な意見や提案を述べていただきました。
参加していただいた皆さんからは、「自分にとって大切なものについて考えさせられた。」「いろんな人の意見が聴けて参考になった。」「せっかくなので機会だから、もっと多くの人が参加してほしい。」「など、たくさん感想が寄せられました。」

町では、住みよい町づくりに向けて、今後も文化講演事業や、男女共同参画の普及啓発事業として講演会を実施していきます。幅広い世代の方から、多数の参加をお待ちしています。

えちごかわぐち物語2002秋まつり



4日 芸能発表会



収穫、芸術、文化の秋を満喫しました！



▲生涯学習センター周辺は、よさこいソーランやパフォーマンスでいつも賑やか！

3日 生涯学習センター周辺



収穫、芸術、文化の秋、川口町秋の祭典「えちごかわぐち物語2002秋まつり」が11月3、4日、盛大に行われました。
3日は、例年になくあいにくの空模様でしたが、会場の生涯学習センター周辺には大勢の皆さんが集まって、無料で振る舞われた豚汁を片手に農産物の販売や抽選会など思い思いに楽しんでいました。また、生涯学習センター内では料理コンテストや書道、絵画、アートフラワーなどの作品が展示され、4日に行われた芸能発表会では、町内の皆さんによる歌、踊り、ジャズダンス、劇など日頃の成果が披露され、多くの観客を沸かせました。

審査会では、星野町長をはじめ5人の審査員が試食。それぞれの家庭で守られてきた秘伝の大根料理を前にして、大変難しい審査会となりましたが、次のとおり入賞作品が決まりました。



秘伝の大根料理で味じまん 郷土料理コンテスト
現代の食生活から次第に忘れられ埋もれかけている昔ながらの素朴な料理を見直し、地域の食材を活かした川口町の伝統料理の発掘を目的として開催された郷土料理コンテスト。
今回のテーマは「大根」を中心とした料理ということで、総勢20名の腕自慢の皆さんが、昔から受け継がれてきた我が家の大根料理を持ち寄りました。



審査会後の試食会では、大勢の方々が参加者の料理を味くらべ。会場のおちろこちから「あ、これおいしいー」「私、この味が好きー」と言っ子どもたちや年輩の方々の声が聞こえてきました。



最優秀賞 「雑煮のこ」
桜井マサノ（大谷内）
優秀賞 「にしん大根」
小林美知江（木沢）
小林恵美子（木沢）
(敬称略)

生涯学習と人権教育

互いに尊重し合える社会を目指して…

生涯学習には、さまざまな分野がありますが、今回は人権教育について、考えてみましょう。人権という思い浮かべるのは「同和問題」と考えがちですが、そのみならず、外国人や障害者などの外見からくる人権問題や、高齢者や児童などの年齢からくる人権問題などがあります。その中で、今回は外国人の人権問題について、一人のスリランカ人の手記により考えてみましょう。

「母さん、わたしの手はくろく洗っても白くならんわ」

私はスリランカから日本に来て14年経ちました。娘が一人います。長女が12歳で、次女が10歳です。次女が4歳になり保育園に通っていた時のことです。気がつくとき、次女は毎日石鹸で何回も何回も手や顔を洗うようになりました。娘の行動の変化について気になった私は、そのことについて聞きました。娘は涙ぐんで私を見つめ、「ママ、私の手、白いよね。」と、言いながら両手を広げて見せました。「そうよ。あなたの手は白いよ。」と言うと、娘は、「それでも、ママ。顔と手の甲は、どんなに洗っても白くならないよ。」

と聞きました。突然この言葉を聞いた私は、何を言えいいのか分からなくなりました。「どうしたの？何があったの？話してごらんさい。」

と聞くと、娘は泣きながら、「友だちが『手が黒いから、顔と手を洗って来て。』と、言っているよ。『外人、外人。』って言っている人もいるよ。ママ、どうして私は外人なの？」と聞きました。その言葉を聞いた私は胸が張り裂けそうになって、体全体が震えだしました。そして、娘をきゅっと抱きしめて、どうやって説明したらいいか考えました。

その時、私の頭の中にチューリップの歌が浮かんできました。

「咲いた、咲いた、チューリップの花が。ならんだ、ならんだ、赤、白、黄色。どの花見ても、きれいだな。どの色のチューリップもみんなきれいでしょ。それと同じようにどの人にもいいところがあるんだよ。友だちはまだそのことがわからないんだよ。だから、みんなとなかよくしてね。」

私が日本に来て受けた苦しみ、日本生まれ育った娘がまた受けるなんて、夢にも思いませんでした。娘をこれから育てていくために、私は何をしたらいいのか悩みました。

しかし、一人で悩んでいてもどうしようもないと思い、私は保育園のお母さん方に娘の苦しみを話しました。保育園のお母さん方は娘や私の苦しみをわかってくれて、「二度とこんなことがないようにしよう。」と言ってくれました。そのおかげで、現在4年生の次女は、毎日楽しく学校に通っています。私の悩みを自分たちの問題として真剣に考えてくださった地域の方々に感謝しています。

「同和教育通信」(第23号H12・11・30
長野県教育委員会発行)

この文章には、子どもの何気ない一言がいかに人を傷つけるかを表したのですが、大人の社会でも、少しでも他者と違うものがあつた時に差別をしてしまうことが多々あります。他者と違いがあつても互いに尊重するという基本的な人権感覚を身につけることが重要ではないでしょうか。互いに尊重しあえる社会があつてこそ、自分を高め、生き生きとした生涯学習社会が成り立つのではないのでしょうか。

かわぐち学びの里大学でも各種事業を行う際には人権教育を取り入れながら行っていきます。



HOT トピックス

身近な情報をお寄せください！企画商工課 ☎89-3112

納税表彰を受けました

11月12日、小千谷税務署及び税務協力団体協議会共催による納税表彰式が開催。川口町では次の方々が表彰されました。

申告納税制度の推進に貢献

小千谷税務署長賞
社団法人小千谷法人会常任理事 山下孝正さん(荒屋)
中学生の税に関する標語・作文入賞作品
作文の部
小千谷税務署長賞
3年 井浦 望美さん

「税金、そしてこれからの私」
小千谷地区納税貯蓄組合連合会最優秀賞
3年 江島 結夏さん
「教科書の大切さ」
優秀賞

3年 内山 智美さん
「税金と学校生活」
標語の部
関東信越国税局長賞 佳作
1年 渡邊 麻衣さん
「生きている 見えないところであなただけの税が」
小千谷税務署長賞
3年 江島 一彦さん
「なにげない くらしの中で働く税」
北魚沼租税教育推進協議会長賞
3年 小宮山理絵さん

「税のこと 学んで描く みんなの未来」

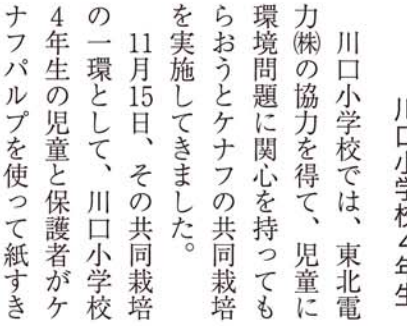
お台場で川口町をPR



11月23、24日の両日、東京都お台場のホテルグランパシフィックの要請により、(株)えちご川口農業振興公社がホテルの広場において、川口町の物産展を開催しました。

当日は、川口町の農産物(大根、米、サツマイモなど)やアユの塩焼、キノコ汁、加工品(笹だんご、五目ちまき、漬物、きょうろぶき)などの販売のほか、餅つきの実演と無料配布を行い郷土の味をアピールしました。今後、ホテルとの提携により季節の農産物の供給を進めたいと計画しています。

ケナフを使って紙すき体験



川口小学校では、東北電力(株)の協力を得て、児童に環境問題に関心をもち、自らおうとケナフの共同栽培を実施してきました。11月15日、その共同栽培の一環として、川口小学校4年生の児童と保護者がケナフパルプを使って紙すきを体験しました。

東北電力(株)の指導員の方から説明を受け、親子で紙すきにチャレンジ。真剣な表情で、水に溶かしたケナフのパルプを網の枠で均等にすくう児童たちの顔が印象的でした。均等にすくった後は、水をきってアイロンにかけて完成！手順を一度覚えた児童たちは、落ち葉をはさんだり、模様を作ったりとオリジナルの紙を作ったりと満足そうでした。

各種大会結果

- 第43回小千谷・川口親善駅伝競走大会(11月17日小千谷・川口)
 - 一般男子の部
 - 1位 十日町地域消防署A
 - 2位 田麦山
 - 3位 高場RCC
 - 高校男子の部
 - 1位 Black Runners
 - 2位 小千谷西高校
- 第49回長岡市民体育祭空手道大会(11月17日)
 - 高校生男子 形の部
 - 1位 小林 満(八郎場)



- 象的でした。均等にすくった後は、水をきってアイロンにかけて完成！手順を一度覚えた児童たちは、落ち葉をはさんだり、模様を作ったりとオリジナルの紙を作ったりと満足そうでした。
- 3位 OHS T&F 一般男子の部(二部)
- 1位 十日町地域消防署B
- 2位 カラータイマー1
- 3位 ファーストクラスA
- 一般女子の部
 - 1位 走遊会レディース 中学男子の部
 - 1位 小千谷南中A
 - 2位 小千谷東中
 - 3位 小千谷南中B
- 町民バドミントン大会夜間リーグ戦(10月11日、11月15日川口中学校)
 - Aクラス
 - 1位 藤田勝博・今井千恵子
 - 2位 小宮山芳治・堀圭司
 - 3位 渡辺智和・大野美奈子
 - Bクラス
 - 1位 桜井智樹・桜井宏美
 - 2位 丸山高之・関智子
 - 3位 石坂信行・星野智彦

ふるさとの味は健康のもと ⑨

山の幸・川の幸・里の幸
かわぐちのごっつお

雑煮のこ



11月3日、郷土料理コンテストにおいて、最優秀賞を受賞した桜井マサノさん（大谷内）の「雑煮のこ」を紹介します。

●材料（6人分）

- 大根.....700g
- 里芋.....100g
- ごぼう.....30g
- にんじん.....50g
- こんにゃく.....50g
- れんこん.....50g
- 干しいたけ.....30g
- 鮭.....250g
- ぜんまい.....30g
- 数のこ.....50g
- かまぼこ.....少々
- みつば.....少々
- しょうゆ.....1合
- みりん.....100cc
- 水.....1合
- だしの素.....0.5g

●作り方

- ①大根、里芋、にんじん、こんにゃく、れんこんはたんざく切りにする。
- ②ごぼうはささがきにし、水にさらす。
- ③しいたけ、ぜんまいは戻し、あらかじめ食べられるようにしておく。
- ④数のこは塩だしをしておく。
- ⑤しいたけの戻し汁1合に、しょうゆ、みりん、だしの素を入れ煮立てる。（冷めたら数のこを入れ味をしみこませる）
- ⑥数のこを取り出し、出汁の中へ材料を入れ、20分くらい煮る。
- ⑦盛り付けにかまぼこ、数のこ、みつばを飾る。

●受賞者からのコメント

家庭によって味は多少異なりますが、昔ながらの「お雑煮」はお正月には欠かすことのできないものだと思います。「雑煮のこ」は餅の入っていないものと言いますが、越後ならではの絶品の味だと思います。

21世紀は私たちが主役！ ⑥



石坂 聡子さん(川口2)

石坂さんは平成10年に新潟市内の福祉系の短大を卒業、ぬくもり荘に勤務して5年目になります。

「川口は落ち着いて暮らせるので好きです。」と笑顔でインタビューに応じてくれました。

▼介護の仕事を選んだ理由は？…「福祉系の短大に在籍していましたが、介護の道に進もうと決意したのは、就職先を考える直前でした。小さい頃から、おじいちゃんとおばあちゃんに可愛がってもらっていたのも関係していたかもしれませんね。」▼仕事の内容は？…「通所介護でぬくもり荘を利用される方を迎えに行き、お風呂に入れたりレクリエーションをして一緒に楽しんだり…ハードな仕事ですが、利用者の方から『楽しい』って言われるととても嬉しく思います。気をつけていることは、自分が心身共に健康でないと人の介護はできないということ。風邪をひいたりしないよう心がけています。」▼最近思うことは？…「最近、自立しなきゃってよく思います。自立と言うよりも自分自身でできることを増やしていきたいですね。この前、タイヤの交換ができるようになったんですよ。」

減反の棚田に蕎麦の花盛り
寂けさや老の夜長に雨の音
瓜刻む音も晩夏の夕支度
赤のまま風生句碑にゆれてあし
秋うらら牧場の牛に耳飾り
落葉散り一人占めなる露天風呂
句の仲間出来て楽しき日の短

●老人クラブ俳句教室 1月8日(水) 末広荘
※出句締切 午後1時

- 渡辺登子
- 喜多村キヨ
- 宮 ヨキ
- 藤田 節子
- 丸山 好枝
- 丸山 次郎
- 覚張 トシ
- 丸山
- 三輪 京子
- 佐藤 信
- 関 よし
- 星野 きの
- 岡村佐和子
- 山田 チヨ
- 山田 久子
- 星野千恵子
- 星野智恵子
- 村山むら女
- 新宮 山紫
- 上村たつお
- 鈴木 良仙
- 森山 みえ
- 佐藤 美智

皆さんのページです。投稿をお待ちしています！

企画商工課 ☎89-3112

みんなの広場

わくわく和南美主催

ソフトボール大会を開催しました

10月27日、和南津グラウンドにおいて、和南津・中山少年野球チーム対ママさんチームのソフトボール大会が開催されました。これは、和南津で地域づくり委員会「わくわく和南美」（代表 丸山 清さん）の皆さんが、少年野球を盛りあげることで地域の活性化に役立てたいと試合を企画したもので、その様子を、「わくわく和南美」の小林嘉弘さんから投稿していただきました。



「あの天気予報では絶対無理プレイできたのは奇跡」というのが監督の最初の言葉でした。しかし熱血球児の心が通じたのか予定ど

おりプレイボールでき、冷たい風の吹く中、いつの間にかゲームは盛り上がり、墨審として参加してくれたOBの中学生たちもちゃっかりママさんチームに：良く見ると13人も守っていたりして、何か温かい雰囲気の流れっていました。「わくわく和南美」は別名達人同好会。プレイ後は、豚汁やそば・うどん打ちの実演も行い大盛況でした。

我々の活動は、逆に24年の少年野球の歴史に触れることにより、「継続は力なり」ということの大切さを実感させられたような気がします。最後に監督コーチから「子どもたちから元気をもらっている」という言葉に感動しました。



元気です！かわぐちっこ ⑥8

江島 洋平 ちゃん (牛ケ島・2歳)
おとうさん おかあさん
弘明さん アメリカさん



家にあるすべり台やブランコで遊ぶのが大好きな洋平くん。保育園でもいつも元気いっぱいに遊んでいます。好きな食べ物は？と聞いたら「大根のきんぴら」と答えてくれました。これからも野菜をたくさん食べて元気に育ててくださいね。

俳句

大内迪子先生選 公民館句会（10月5日）

- 尋め来るを待つとなけれど夜半の秋
- 山霧や出てまだ力無き朝日
- 何思ひ鬼灯鳴らす妻老いて
- 夜半の雨上がり越後の秋深む
- 一畝は子の芋掘りに残しあり
- 待ちに待つ秋雨降れば晴を待つ
- 暑さ去り今朝爽やかに風立ちぬ
- 一燈を残し夜学の嫁を待つ
- 秋彼岸方丈扇子を忘れられ
- 丈なせる紫苑に日和つづきけり
- 写生子に今日も石榴の笑みこぼれ
- 釣り人の芒分け入る河原道
- 暮れゆくを早め雨霧山覆ふ
- 鈴木 良仙
- 上村たつお
- 新宮 山紫
- 村山むら女
- 星野智恵子
- 星野千恵子
- 山田 久子
- 山田 チヨ
- 岡村佐和子
- 星野 きの
- 佐藤 信
- 関 よし
- 三輪 京子